



# Nostalgic Hero

The premier Japanese classic car magazine  
ノスタルジックヒーロー

## クラシックカーを愛する人へ

一週間後、横田館長は北イタリアシチリア島に移動していた。しき島を舞台に開催されるレギティマリイ「エトナ・ラリー(Raidedell'Etnea)」個人としては史上2組目となるラリーを果たすためである。

ナ・ラリーは、今年で21回目をラリーイベント。いささかローが強く、参加車両は約80台。比年式のものも多く、一日あたり距離も少なめ。パカンスの要素豊富なラリーとされている。イベントに、日本の「ラ・フェスフレ・ミリア」および「ラ・フェスアリマツエラ」で堂々の優勝をた「日本のカンピオーネ(チャンピオン)」が参戦したことで、現地の新にも取り上げられる大ニュースたとのことである。

し、優勝イベントとして決してはなるまい。周囲のエントランも、欧州およびアメリカのイベントに参戦してきた猛者ぞろい。それではりオーガナイザー側が用意した、64年型のファイアットリカブリオレとともにスタート出ノ大木組は、一時は暫定1位か、ご本人いわく「痛恨のミス」とはいえ終わってみれば、まさ十金とも言えるべき総合3位入賞うことになった。

冒険で述べた横田館長の新エクトこそ、エトナ・ラリーにもの。海外イベント経験豊富せして「これまで参加した中で」と言わしめたホスピタリティ加えて、参加する仲間たち、ある「ガナイザーであるシチリアの風かきにも感銘を受けて、つい



### Owner's Voice

#### 横田 正弘さん

言わずと知れた伊香保「おもちゃと人形 自動車博物館」館長にして、「スプレンドール」系イベントの主審者。また自身も世界中のラリーで活躍するなど、日本旧車界を代表する一人。今季はこのS30フェアレディ240Zとともに、ラリーモンテカルロ・ヒストリックに挑戦した。



にはイベントの日本事務局を引き受けることになってしまったのだ。

来る2019年、9月29日〜10月5日まで開催されるエトナ・ラリーには、おそらく複数の日本人エントラントの姿も見られることになるだろう。もちろん横田館長ご自身もエントリすることを選択しているのだが、一時はラリー・モンテカルロ・ヒストリックと一緒に走った相棒、ダットサン240Zとともに来年のシチリア島に赴くことも本気で考えたという。

しかし、ここが館長の妻いところである。これまで日本人にとっては前人未到であった国際レギュラリティーラリー総合優勝を狙うため、最もハンデ係数の高い戦前モデル、23年型ファイアット501Sを日本から持ち込み、本気で「勝ちにいく」とのこと。今後絶対目撃できないのである。

# 新たなる挑戦

TEXT : HIROMI TAKEDA / 武田公実

ラリー・モンテカルロ・ヒストリックにおける感動的な完走から約8カ月。常に新しいことに挑戦し続ける「伊香保おもちゃと人形自動車博物館」横田正弘館長が新たに志しているプロジェクトについてお話ししよう。



今年2月に「ラリー・モンテカルロ・ヒストリック2018」をダットサン240Zとともに無事完走。5月の「前橋クラシックカー・フェスティバル」で、故郷の群馬県前橋に凱旋するという長年の夢をも実現した横田正弘館長だが、その心は早くも次なるプロジェクトへと飛躍しているようだ。

この9月、横田館長の姿はイタリア北部の古都マントヴァにあった。第二次大戦前の世界最強レーサー、タツイオ・ヌヴォラーリの故郷としても知られるこの町は、現在では人気のレギュラリティーラリー「グランプレミオ・ヌヴォラーリ」の発着地となっている。グランプレミオ(GP)ヌヴォラーリは、タツイオが1953年に逝去したのち、伝説的ロードレース「ミッレ・ミリア」のコース上に、翌54年から彼の偉業をしのいで設定された同名の区間賞に由来する。そして91年、伝統のGPヌヴォラーリは、当時復刻版ミッレ・ミリアの大成功により世界的ブームとなっていた、クラシックカーによるレギュラリティーラリーとして復活。現在ではミッレ・ミリアに次ぐ格式の国際的ビッグイベントとして全世界から認知されている。

第28回となった今年のGPヌヴォラーリには、例年と変わらず300台を超えるクラシックカーとそのエントリーたちが集結。さすがに世界的イベントである。そんな中であって、現地でレンタルした53年型フィアット1100TVベルリーナで出走した横田/大木組は、ハンディ係数の小さな戦後モデルで、しかも小排気量車という厳しい条件をもとめせず見事に完走。総合39位という、まずまずの成績をマークした。